

第2回 産業競争力・研究力中核大学群に関するWG

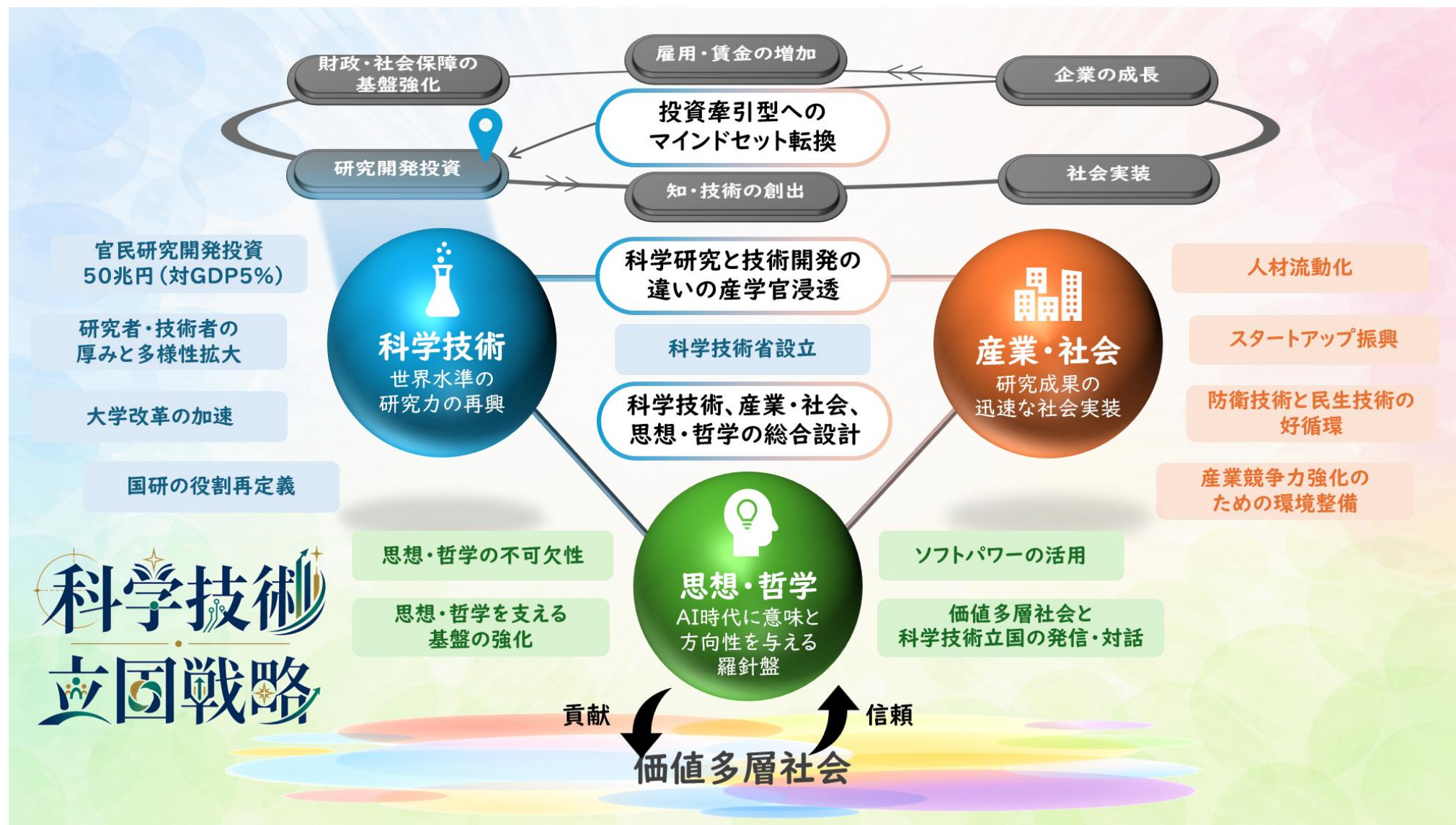
産業競争力・研究力中核大学群への期待

2026年7月30日

一般社団法人 日本経済団体連合会
常務理事 小川 尚子

はじめに：経団連「科学技術立国戦略」（2026年5月公表）

経団連では、研究開発投資を起点とした「科学技術立国」の実現に向けた考え方と必要な改革を提言。



はじめに：経団連「科学技術立国戦略」（2026年5月公表）

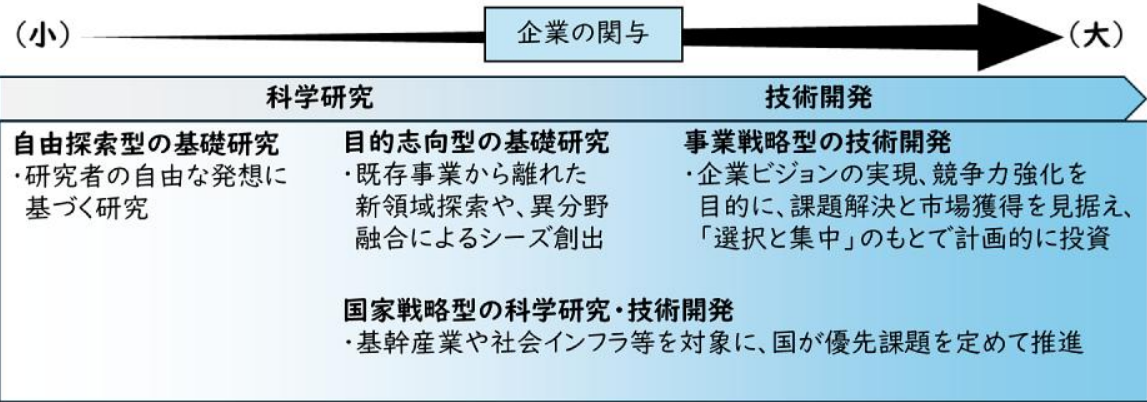
科学技術立国の実現に向けて、企業としても長期的な価値創造に資する投資を一層積極的に進めていく決意。
大学にも一層の役割を期待。持続的に研究開発成果を創出する基盤の強化に向けて、大学改革の加速を提言。財源多様化等の環境整備も必要。



企業

◆ 企業による積極投資

- ・経済界は、長らく続いたデフレ経済下での「コストカット型」経営から「投資牽引型」経営へ転換し、持続的な成長に向けて、研究開発投資をはじめ、中長期的な価値創造に資する投資を一層積極的に進めていく決意。
- ・その一環として、産学連携や、いわゆる中央研究所の再興などを通じ、基礎研究にも果敢に投資していく。



大学改革の加速

◆ 再編・統廃合の加速

- ・人口動態、医療等インフラを支える観点からの再編・統廃合を進めるべき。
- ・特定の大学を「研究大学」として指定する制度を整備する際、「研究大学」には、わが国の成長のエンジンとして、世界的に秀でた研究力を有し、イノベーションの中核として産業競争力強化に貢献することが求められる。
- ・地方においては、地域産業と結びつき、産業クラスターの形成を通じて、地方経済の強靱化に資することが期待。
- ・「研究大学」の指定に当たっては、「ある特定の分野・領域を学ぶ・研究するならこの大学」と世界に認知されるような、いわば「ビジブル」な得意領域を有することが不可欠。

◆ OIST成功モデルの横展開

- ・OISTの国内他大学との制度設計の違い（グローバル基準の人事・採用制度、研究者や研究テーマの多様性、研究の自由と責任を明確にするPI制度、研究者が研究に専念できる支援体制など）を成功要因として抽出し、国内の研究大学へと横展開することが重要。

大学(産業競争力・研究力中核大学群)に期待する役割

大学には、研究力・成果はもとより、人材育成・輩出、産業界との連携、スタートアップ創出までを含めた多様な役割を期待。大学群の評価軸については、多様な視点を取り入れて制度設計すべき。

01 価値創造人材の育成・輩出

- 分野横断による「探究力・創造性」の涵養
- 研究者・技術者など価値創造人材の厚みと多様性の拡大
- 産業基盤や医療等のインフラを支える人材の育成
- 社会人を対象としたリカレント教育の提供
- 海外留学・派遣等を通じたグローバル人材の育成
- 世界トップレベルの研究人材の招へい・定着

02 世界に冠たる研究力の確立

- 新たな知・研究開発成果の持続的な創出
- 世界的に秀でた研究力の獲得
- 「この分野ならこの大学」と世界に認知されるビジブルな得意領域の確立
- 世界トップレベルの研究拠点の形成

03 研究成果の社会実装・産業競争力強化

- 研究成果を経済的・社会的価値へ転換
- イノベーションの中核として産業競争力強化に貢献
- 企業との共同研究、産学間の人材流動の促進
- 事業戦略・知財戦略・経営人材を含む「産学融合」
- スタートアップ創出や社会実装までの一貫通貫の推進

▶ 地域産業・社会を支える中核拠点として地方経済の強靱化への貢献も期待

要件① 産業競争力強化へのビジョン について

「日本成長戦略」や「地域未来戦略」など政府の長期的な産業政策・地域政策の中で本大学群を位置づけ、政府としても長期のコミットメントを示すことが必要。

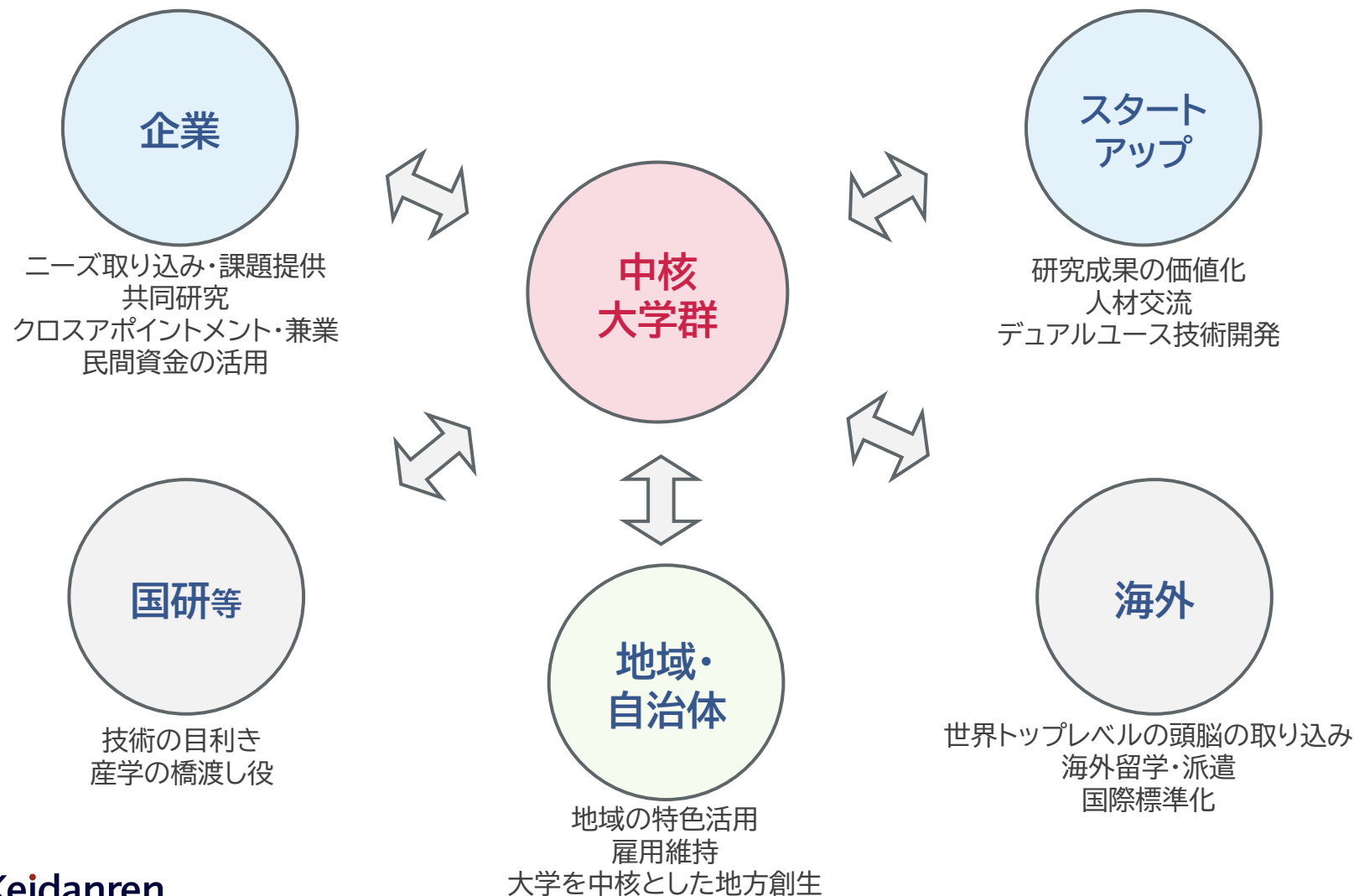


中核
大学群

政府の産業政策と連動しつつ
「ある特定の分野・領域を学ぶ・研究するならこの大学」
と世界に認知される「ビジブル」な得意領域
を有する大学群に重点的に支援

要件④ 経済圏への深い貢献 について

本大学群には、個々の企業・主体との連携にとどまらず、サプライチェーンや地域の経済圏の中でまさに中核となり、人や技術をつなぎ、産業競争力強化に貢献することを期待。



産業・社会への実装に向けて 「死の谷」を超える鍵は 人材流動化

- クロスアポイントメントにおいては、雇用契約の煩雑さ、機密保持や知財管理等が課題
- 大学や国研は、経済界から研究者や事業戦略・知財戦略人材、経営人材を呼び込むべく、報酬・処遇を経済界水準に引き上げるべき
- 経済界も、自らの人材の多様性を高めイノベーション力強化につなげるべく、積極的に大学や国研、さらにスタートアップの人材を受け入れることが重要